

○ウラボシヤハズ若狭湾に産す (梅崎 勇) Isamu UMEZAKI: *Dictyopteris membranacea* (Stackh.) Batters found in Wakasa Bay

褐藻類アミダグサ科ヤハズグサ属のウラボシヤハズは、本邦では山田幸男博士(1931)が浜名氏によつて奄美大島より採集された標本を初めて *D. polypodioides* Lam. として報告され、更に故遠藤吉三郎博士による種子ケ島産の標本も引用されている。又、氏家由三氏が瀬戸内海塩飽群島本島より採集された標本を、田中剛博士(1945)が *D. polypodioides* (Desf.) Lam. として査定し、其の報告において故岡村金太郎博士著“日本海藻誌”中にある奄美大島産の *Neurocarpus* sp. とあるもの及び山口県馬関産の両標本はウラボシヤハズに属することを指摘している。又最近、瀬川宗吉博士の“原色日本海藻図鑑”(第15図版129図)、第1版(1956)にウラボシヤハズが *D. polypodioides* (Desf.) Ag. として掲げられ、同著第2、第3版(1958)において其の学名を *D. membranacea* (Stackh.) Batters と訂正されている。沢田武男氏(1958)は福岡県の“津山崎海岸の海藻”のリストで本種を記録されている。

筆者は昨年、福井県立若狭高校の堀口秀雄教諭及び同校生徒の海藻標本の鑑定を依頼されたが、其の中にウラボシヤハズの標本が発見されたので、茲に報告する次第である。

前述の如く、ウラボシヤハズは本邦においては、瀬戸内海、下関、北九州、種子ケ島及び奄美大島等の暖海に広く分布している。世界に於ける地理的分布上からも一般に暖海及び熱帯地方に分布している。即ち、地中海、大西洋、西印度諸島、紅海、南アフリカ、アラビヤ海及びオーストラリアである。又北方産として英国海岸から報告されている。

又最近の生駒義博氏(1956, '57)の本州南部(能登から長門)の日本海岸における海藻フロアの報告及び広瀬弘幸博士(1958)の但馬産海藻目録中にも本種が発見されておらない。斯くして、本州日本海岸の中部に位置する若狭湾よりの本種の発見は、本種の本邦における分布の最北端であり、其の分布上非常に意義があるものと思われる。

Dictyopteris membranacea (Stackhouse) Batters: Newton, Handb. British Seaweeds 216, f. 137, 1931; Feldmann, Rev. Algol. 9 (3-4): 319, 1937; 瀬川宗吉, 原色日本海藻図鑑 28, 15 図版, 129 図, 1958; 沢田武男, 津屋崎海岸の海藻 2, 1958.

Dictyopteris polypodioides (Desf.) Lamr. Hauch, Meeresalgen (Rabenhorst, Kryptogamenfl.) 2: 311, f. 130, 1885; Yamada, Rev. Algol. 6 (1): 2, 1931; 田中剛, 植研 20: 150, 1, 2 図, 1945; Hirose, Biol. Journ. Okayama Univ. 3 (1-2): 97, 1957.

産地: 海面下約1米の岩上に生育する。福井県三方町塩坂越。1957年8月16日。山中美喜子採集。京大農学部水産学教室腊葉室に保存(京都府舞鶴市)。

植物体は淡黄褐色、高さ20cm、一ヶ所より4本叢生する。枝は叉状に分岐し、広開し、又は直上し、幅広く8-15mm。葉片は両縁共全縁にして波縮少く、極めて薄い膜質である。生殖器官は見られない。

本植物の鑑定に際し助言を与えられた鹿児島大学水産学部田中剛博士に謝意を表する。
(舞鶴市京都大学農学部水産学教室)